

# 対カメルーン、コンゴ（共）、コンゴ（民）、中央アフリカ無償資金協力 「コンゴ盆地における持続可能な熱帯雨林経営と生物多様性保全のための能力強化計画」（ITTO連携）について

## 1. 概要

- ・ 国際熱帯木材機関（ITTO）と連携し、アマゾンに次ぎ、世界で2番目に大きい熱帯林地帯であるコンゴ盆地を形成するカメルーン、コンゴ（共）、コンゴ（民）、中央アフリカにある6つの森林技術者育成機関において以下の活動を支援する。
- ① 持続可能な森林経営に関する6つの訓練プログラムの策定
- ② 訓練プログラムの実施に必要な施設・機材の整備
- ③ 各機関の常勤・非常勤講師280名が、調達機材・策定プログラムを活用し指導するための訓練活動
  - ・ 供与額：2.78億円
  - ・ 実施機関：中部アフリカ森林・環境研修機関ネットワーク（RIFFEAC）／ITTO

## 2. 背景

- ・ 人材不足のため、アジアや中南米の熱帯林と比べ、コンゴ盆地を中心とするアフリカでは持続可能な森林経営の導入が遅れている。
- ・ コンゴ盆地では、毎年600名以上の技術者が新たに必要とされているが、現在域内の人材養成施設が輩出する技師・技術者は年間320名程度である。さらに各施設では、内戦などの影響により研修機材の不足などにより研修生が実務で必要となる知識・技術を十分に身につけられていない。



1997年の内戦以降再建されていない森林開発要員の養成施設（コンゴ共和国）

## 3. 効果

- ・ 人材育成機関の施設を整備することにより、教育の質が向上。育成される技術者が、年間350名に増加する。
- ・ 育成された技術者により、コンゴ盆地域内における持続可能な森林経営が推進される。
- ・ 育成された技術者が、持続可能な森林経営を住民及び民間企業等にも実施させることで、森林資源に依存する農村部住民の貧困削減や所得向上に貢献。結果として、生物多様性・気候変動分野の対処能力向上につながる。

# 対象施設位置

## 及び森林保護地域図



= 森林保護地域

